謹んで　川浪 茂男　先輩に対し　お悔やみ申し上げます。

RKM会長　36期　久我 昭雄

去る8月24日、29期川浪茂男さんがお亡くなりになりました。心からお悔み申し上げます。ご家族やRKM仲間の皆様も、さぞお力落としのこととお察し申し上げます。

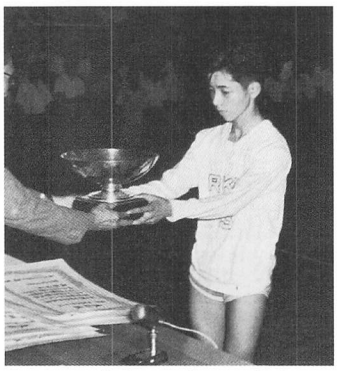
RKM幹事メンバーとして、一言お礼とお別れを述べさせていただきます。

RKM幹事会から、大先輩の川浪さんにRKM100周年記念事業のアーカイブのリーダーをお願いしたのは2012年のことです。快くお引き受けいただき、毎回の幹事会に出席いただき、ご意見などをお聞きしてきました。長い間、貴重なご助力をいただき、とても感謝しております。

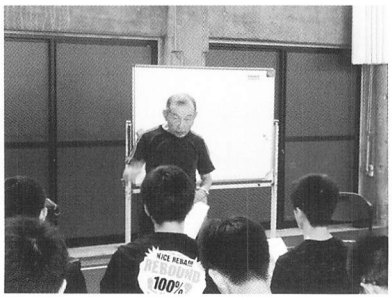
川浪さんは、昭和29年インターハイ全国制覇の時のキャプテンで、私にとっても伝説の存在です。それまであまりお付き合いはなく、畑先生が話される川浪さんのプレーぶりと、高校生の頃、慶応大学の練習を厳しい姿勢で指導しておられるのを見た記憶だけがとても強かったのですが、幹事会でそのお人柄と、ものの見方に接し、とても親しく感じるようになったものです。幹事会をおやめいただいた時も申し上げましたが、本当にお世話になり、良き先輩とお付き合いいただけたことを深く感謝しております。

今は川浪さんのご冥福をお祈りするばかりです。

合掌



1954 年秋田インターハイ優勝



2016 年現役指導

2018 年総会

永遠のキャプテン　川浪茂男君の死を悼む

HGC(RKM29 期) 有志

8月24日、茂男君の夫人より、「同日朝、茂男君が入院中の病院で逝去した」旨の電話を受けた。同君が呼吸器系の疾患を患い、最近入退院を繰返していたことは武蔵 29 期の籠球部仲間は承知していたが、こんなに突然に、幽明境を異にすることになるとは。仲間全員が言葉を失った。

我々 29 期の仲間は、殆どが昭和 24 年に武蔵学園が敗戦後初めての中学1年生を募集した時に入学した生徒である。我ら同期生が、その後中学・高等学校時代をどのように過ごしたかは、2018 年度の武蔵高校同窓会会報 (第 61 号) にその一端を記載してある。

茂男君は、決して目立った生徒ではなかったが、学校生活の態度は、付和雷同することなく、常に冷静沈着であった。以下に茂男君の思い出と共に、当時の社会事情なども書いてみたい。

昭和 24 年、学校が始業されると、文化・運動などの課外活動も活発に行われるようになり、武蔵の伝統スポーツ部であるバスケットボール部にも当初はかなり多数の生徒が参加していた。また、この段階では複数の部に所属する生徒も多く、賑やかな練習風景であったと記憶している。だから、同期生の中には、その後退部したが、運動神経も良くバスケットの技術レベルの高い生徒がかなり存在した (彼等が後にバスケット部応援団の中心となり他校との試合に多数応援に来てくれた)。

武蔵のバスケット部は、中学の練習でさえ多数の OB (主として大学生) が参加してくれたので技術レベルは高く、我々は中学校の東京都大会では負けた記憶なし。東京都大会で優勝すると、試合ボールが優勝賞品として貰えた。

中学生でありながら、九段高校や北園高校とも練習試合をした記憶あると言う奴が居る。本当であったのか思い違いであったのか、茂男君が居なくなるともう判らない。

我々の中学時代の思い出の一つに、御茶の水大学付属女子高等学校生の『姉様チーム』の練習相手になっていたことがある。当時、武蔵バスケット部顧問の畑龍雄先生が、御茶の水の正式なコーチをしていたので、その『姉様チーム』の強化のために、夏休みなど我々中学生が練習相手をさせられた。なお同『姉様チーム』は、当時の女子バスケット界では (実業団・学生を含めた) 全国的な強豪チームの一つであった。

ただ我々にとっては、女子校・女学生が珍しく、皆喜んでこの練習に参加した。中にはこの夏休み練習に皆勤した者や、池袋駅から同校のある都電の停留所「大塚窪町」までを連日走破して参加した猛者まで出現した。

また、異種校交流戦として、成増のアメリカンスクールや西武池袋線沿線の「自由学園」との練習試合も行った。アメリカンスクールでは、練習後のシャワー室 (当時日本にはそんなものは無かった) でアメリカ人少年達の体格のでかさや、練習後に食べた食べ物が豊富で美味しかったことなどに驚いた。また、「自由学園」では男子中学生が教室の床板を雑巾掛けしているのを見て驚いた。

高校に進学するとバスケット部の練習内容は更に高度になり、畑先生が米国専門誌から仕入れた最新の技術・フォーメーションを取り入れた試合形式の練習も多くなった。ただし練習は「学期中週三日、定期試験中無し」を堅持した。そうすると試験中にコートに現れてシュート練習をし、試験の不出来の憂さ晴らしをする奴が続出した。

合宿練習は年末・正月休暇や春休み期間に行われたが、その費用に関しては、相当部分をバスケット部 OB の寄付に頼った。就職して配属先に行ったらそこの課長が寄付を貰いに行った OB だったという実話まである。(自慢話で言わせてもらえば、我々が強かったせいか、OB は皆喜んで寄付をしてくださった。)

誰も記憶がはっきりしないのだが、我々の時代は学校を代表するチームキャプテン以外に各学年でキャプテンを決めており、日常の行動は学年キャプテンの指令に従っていた覚えがあり、我々 29 期は茂男君をキャプテンに決めた。選出理由を挙げれば、次の通りであったと思う。

① バスケットが好きで、練習熱心、決して手抜きをしない
② 他人に対して公平であり、他人を排除せず、陰口もなく、他人の意見を聴く (単なる同調ではない)
③ 決定した事柄に忠実 (多少頑固)
④ 決して他人の悪口を言わない
⑤ 整理・整頓のすごさ (彼のバッグの中の整理・整頓を見て驚かなかった奴は居ない、汗だらけの練習着を入れるのでさえ彼はたたんで入れていた)

因みに我々は中学1年以来の 70 有余年の友人であるが、彼の本質は不器用なまでに変わらなかったと思っている。無論、お互いに年齢を重ねて、人生を過ごしてきたので、環境に応じて多少の変化を感じたことはあったが、彼は常にいつもの「川浪茂男」であった。

彼の社会活動等について言えば、会社を退職後、

① 地元において「さる裁判所の調停委員」をやっていた。
彼にとっては、生来の性格に、社会経験を加えた社会人としての本役は正に適役であったと思うが、相談者の方は十人十色であるので彼の真意を理解して調停案を受けたケースがどの程度あったかを我々は知らない。
② 地元の「早朝の小学校生徒登校時の交通整理」
彼の自宅前に小学校があり、毎朝早起きをして小学生の安全登校に尽力していたとの話を、彼から聴取したことあり。地味な社会奉仕。茂男君ならの感あり。
③ 「青山好宏君への介護協力」

青山好宏君は武蔵中学1年来の友人でバスケットボール仲間である。身長は大きくないが、生来頑強な身体の持ち主であったが、不幸にも 70 歳代後半に奇病に罹り、残念ながら犠牲者となった。青山君は JR 総武線「新検見川」駅近くに住んでいたので、「稲毛」に住んでいる茂男君は青山君の奥さんと良く連絡をとって、看病に協力していた。体力維持に良いとされる体操なども、どこからか仕入れてきて青山君に教えていたのを、我々仲間は見ている。青山君はその後、薬石効なく他界したが青山家で見せた茂男君の本当の優しさを我々は忘れない。

そして『母親孝行』。仲間どうし長く付き合っていると、お互い良いところ、悪いところ色々見えてくる。ただ我々バスケット仲間全員が認めているのが茂男君の母親孝行。

茂男君は川浪家の三男でありながら、母親に対し最後まで孝行を尽くした。誠に立派な親孝行であった。無論、この偉業は彼一人で出来ることではなく、茂男夫人の献身的協力なくしては、あり得なかったろうと拝察する。

川浪！　お前はいいキャプテンだった。